影をひそめた無用論

三地区の基本調査結果

関東・東海・近畿三地区修学旅行連絡協議会（海保四郎会長）が昨年十二月に実施した修学旅行基本調査結果がまとまり、今回の第八回連絡協で発表された。この調査は十五項目におよぶ修学旅行の基本課題のほか教職員の意識調査もふくまれ、各修旅委に属する中学校のうち一府県二〇校を無作為抽出し、関東一〇〇、東海、近畿各六〇の計二二〇校に対しておこなったもので、回答率は九二・七%。また同時に一校五名の教員を抽出、関東五〇〇、東海・近畿各三〇〇の計一一〇〇名について意識調査をした。この回答率は九四・二%、一〇三七名におよんだが、「修学旅行が有効である」とするものが八四・七%を占め、「全く効果なし」はわずか〇・二%にすぎず、修学旅行無用論は影をひそめてしまったのが注目される。

▼修学旅行を実施したか（するか）しないか（しない）

しなかったもの（四十六年度に関東二校）しない（五十年度に近畿一校）

▼修学旅行の実施学年は。

東海の二校（三月実施）近畿一校が二年時に。あと全部三年生。

▼日数と泊数は。

ほとんどが二泊三日。三泊四日の学校は四十九年度に東海九、近畿一〇。五十年度は東海七、近畿八で関東なし。

▼集約列車を利用したか（しないか）

しなかった学校は四十九年度関東一二、東海一七、近畿七。五十年度関東七、東海一七、近畿一〇

▼集約列車を利用しない理由。

「目的地が違うから」二七、「出発や帰着の時刻が実情に合わぬから」二四、「学校で自由に計画したいから」二〇、「希望する時期にとれないから」三などがあった。

▼引率の教員数は。

四十九年度だけの調査では生徒数二〇―二九名に教員一名が圧倒的に多く一三九校、つぎは一〇―一九名に一名が三九校、三〇―三九名に一名が一〇校、四〇―四九名に一名が八校あった。

▼修学旅行における事故。

個人的病気、集団感冒、けが、けんか傷害、交通事故などを調査したところ、四十八年度の関東地区では流行性感冒のため二七八人が罹病、交通事故は四十六年度に暴走トラックとバスが衝突、関東地区の一一名がけがをした。

▼二泊三日の修学旅行費はいくらか。

年ごとに上昇、四十九年度は四十六年度の倍近くになっている。昨年度の県別の最高・最低平均費用は次の通り。（上は最高、下は最低）

【関東＝関西方面】一万六千九百二十円、一万三千三百二十円【東海＝関東方面】一万七千三百二十円、一万一千八百九十円【近畿＝関東方面】一万七千三百二十円、一万一千八百九十円。

▼学校で示した小づかいはいくらか。

四十九年度の県別・最高、最低をみると次の通り。（上は最高、下は最低の金額）

▽埼玉＝五千円、三千円、▽群馬＝五千円、二千円▽栃木＝三千五百円、千五百円▽茨城＝八千円三千円▽千葉＝五千円、千五百円▽愛知＝三千円、千五百円▽岐阜＝四千円、二千五百円▽三重＝五千円、二千円▽大阪＝三千円、千円▽京都＝五千円、二千五百円▽兵庫＝五千円、三千円。

▼修学旅行に対して市町村から補助金があったか。

あった学校を県別にみると四十九年度は埼玉二、群馬一、茨城二愛知五、岐阜三、大阪二、兵庫二京都九。

▼要保護・準要保護・へき地校の生徒に対する補助金の不足額はどう処置しているか。

①市町村から補助＝埼玉一三、群馬二、栃木三、茨城八、千葉八愛知一二、岐阜一四、三重一三、大阪一二、京都一七、兵庫一六。②PTAその他から＝栃木一、茨城二、千葉四、兵庫一③自己負担＝埼玉四、群馬一七、栃木一四、茨城六、千葉八、愛知八、岐阜七三重四、大阪四、京都一、兵庫三。このほか京都では積立金の利子で、補助しているのが一校。

三地区連絡協の出席者

第八回三地区修旅連絡協の出席者は次の通り。（順不同、敬称略）

【関東】伊藤守（関修委運営委員長、栃木県修学旅行委員長、宇都宮市陽西中学校長）高橋尹徹（関修委運営副委員長、埼玉県修学旅行委員長、蕨市東中学校長）吉田四郎（関修委運営委員、茨城県修学旅行委員長、水戸市赤塚中学校長）星野一夫（関修委運営委員、群馬県修学旅行委員、沼田市薄根中学校長）金子善壱（関修委事務局長、千葉県修学旅行委員長、市川市第八中学校長）

【東海】安江康夫（東海三県修旅委員、愛知県小中学校長会副会長・稲沢市稲沢中学校長）近藤虎之助（東海三県修旅委員、岐阜県中学校長会副会長、海津郡海津町海津中学校長）安川武男（東海三県修旅委員、三重県中学校長会長津市西橋内中学校長）

【近畿】北牧一雄（近畿二府四県修旅委員長、大阪府中学校長会副会長、枚方市枚方中学校長）弓削輝一（近畿二府四県修旅委員、京都府修旅委員長、長岡京市長岡中学校長）柴崎博（近畿二府四県修旅委員、兵庫県修旅委員長、西宮市上甲子園中学校長）井沢長左衛門（近畿二府四県修旅委員、奈良県修旅委員長、吉野町吉野中学校長）

【特別委員】久保田八郎（元三地区会長、元近畿二府四県修旅委員長）中山正秋（元三地区会長、元東海三県修旅委員長）横山正（元三地区副会長、元東海三県中学校修旅委員長）

【顧問】山本種一（全修協理事長）

【参与】白滝末紀（全修協事務局長）

【事務局】嶋津佃郎（全修協総務部長・関修委運営委事務主幹）

高い学習効果

意識調査

修学旅行に対する意識調査は回答のあった群馬九五、栃木九二、茨城七九、埼玉八九、千葉一〇二愛知九九、岐阜一〇六、三重八〇京都一〇五、大阪八七、兵庫一〇三の十一府県千三十七名の教員についておこなった。年齢別では二〇代二三七、三〇代二九三、四〇台三五八、五〇台、一四九。男女別は男六八四、女三五三であった。

▼修学旅行は教育上、有効と考えるか。

「非常に有効である」が一三・三%「有効である」七一・四%。これ合わせると八四・七%に達し現場教師の大勢は教育上、価値あるものとして認めている。

▼この「有効」とする教師の大部分も無条件ではなく、現状の改善を前提としていることが内在している。

▼「あまり有効ではない」（一四・五%と「まったく効果がない」（〇・二%）は教育上の効果に疑問を持っている。それらの疑問については十分耳を傾けねばならない。

▼「わからない」（〇・六%）は現状に満足していないものと判断すべきだろう。

▼「有効である」の教育上の理由として「教室学習の知識を確かなものにする」があり、経験に訴える学習効果を認めている。（七〇・三%）。また「集団行動のありかたを身につけることができる」（六九・八%）、「学校生活のよい思い出となる」（七二・二%）があった。

そのほか「友情が育つ」（三六・四%）も見逃せない。

以上のうち、とくに「集団行動のありかたを身につけることができる」では教育上のねらいをどう具体化すべきかが今後の大きな課題となろう。

また「教師の責任が重すぎる」「事故につながるおそれがある」などは教師の消極的立場を端的に示している。

定着した自主見学

青森県立八戸北高

5年目迎える新方式

【青森】青森県立八戸北高校校（八戸市大久保、根城正一郎校長）の〝自主見学〟を目標にした修学旅行は、すでに昭和四十六年から行われ、ことしの秋には早くも第五回目を迎える。昨秋の第十一回生二年は五泊六日で関西方面へ行ったが、その記録「はらからの旅」がこのほど完成、各方面へ配布された。それによると各パーティの報告書、見学当日の体験記などを通じ、いわゆる〝北高方式〟がみごとに定着し、県内でも高く評価されている。

同校が修学旅行に〝自主見学〟を取入れたのは昭和四十六年のこと。はじめは相当冒険ではないかとの声が聞かれたが、年を経るごとにすばらしい成果を挙げていることがわかり、以後は毎年継続しいまでは「北高方式」として自慢の修学旅行となった。

昨年は三百五十二名（男子百八十六名、女子百六十六名）が十一月二十四日朝、八戸駅を出発、同夜京都着。

翌日は平安神宮、二条城、京都御所、清水寺などを集団見学したあと二班にわかれて西芳寺、竜安寺、金閣寺を交互に見学した。二十六、七日は①洛東（三十三間堂清水寺、南禅寺、哲学の道）②洛北（大原の里、一乗寺付近）、比叡山）③洛西（花園周辺、嵯峨野保津川下り④西山（大原野）⑤洛南（伏見、桃山、宇治）⑥洛中洛（木屋町―新京極）⑦大阪（大阪城）⑧奈良（飛鳥、高松塚古墳）に分かれて〝自主見学〟をした。

班の編成は学級にとらわれず、一班四名を目標にしたが、実際には二名から六名、全部で八十九班となり、これを九班にわけた。

二十六日は午前八時出発。途中定時ごとに本部へ連絡、行動を報告したが、なかには無断で遅刻した班や、二十分も遅れた班もあった。この原因は出発日の列車遅延による自棄気味の影響だと判断、全体集会のあと予定していた夜間外出は中止、レポート作成提出だけにとどめて休養させた。

二十七日はみんな元気を回復、思い思いの見学を終え午後四時までに全班とも無事帰着した。

圧倒的に希望の多かったコースは大原の里、嵯峨野、三十三間堂―清水寺などで勝持寺（花の寺）も人気があった。

翌二十八日は奈良方面へ集団見学とし、法隆寺、東大寺、春日大社、唐招提寺、薬師寺などを回わり、二十九日午後八時に八戸駅に帰着した。

京都の清水寺でグループ見学をする八戸北高生
（「はらからの旅」から）

この旅行でいちばん不安だったのは国鉄スト。刻々に変わる情勢に悩まされたこと。しかしストが回避され、無事に実施できた。また、寒期に入るため発病が懸念されたが、ひとりの病人もでず、しかも快晴にめぐまれてすばらしい修学旅行だったと同校ではいっている。根城校長は「本年もまた生徒たちの小グループによる自主見学が成功するよう願った。自分で見学地を選定し、コースの検討、見学テーマを設定して一年前から研究に取り組み、そして実際に自分の足で歩き、自分の目で確かめ学習する旅にしよう―これが私たちの修学旅行である。この体験を通して自分の心のなかに新しい何かを創り出していくことだろう。永遠の美、無形のきわめて格調の高い詩の情緒を秘めた豊かな文化遺産は、わが民族の宝であり誇りである。この修学旅行の記録は北高時代の想い出の記であり、青春のあかしである」と「はらからの旅」で述べている。

南から
オレンジファンネルグループ
北から
楽しい思い出は海の上で….
苫小牧
苅田
大洋フェリー
大阪
伊勢松阪
東京
フジフェリー
日本沿海フェリー
日本沿海フェリーさっぽろ丸

●大阪南港↔北九州(苅田)
〈毎日出港〉
大洋フェリー
大阪市西区新町南通1－7(住生四ツ橋ビル)
〒550　TEL06(532)3651
予約センター　苅田093(46)3135
東京03(562)1571　大阪06(531)5511

●伊勢松阪↔東京〈毎日出港〉
フジフェリー
東京都港区新橋1－10－7(大和銀行新橋ビル)
〒105　TEL03(572)7111
予約センター　東京03(563)0578
松阪05982(6)3711　大阪06(531)8291

●東京↔苫小牧〈毎日出港〉
日本沿海フェリー
東京都港区新橋1－10－7(大和銀行新橋ビル)
〒105　TEL03(573)1911
予約センター　東京03(563)4015
札幌011(261)6321　横浜045(681)7744

又は最寄の旅行代理店へ

富山県の文化財 ＜3＞

遺跡の多い氷見

清水巌

藤波の影なす海の底清み沈着く石をも珠とぞわが見る（家持）

能登半島国立公園の入口である氷見市は、越中の誇る立山連峰を有磯の海の彼方にのぞみ、古代遺跡の最も多いところとされ、万葉ゆかりの地でもあります。

そして、夏は対馬暖流、冬はリマン寒流が潜流となって豊富な日本海の幸をはこび、南方系、北方系の植物がみられます。

★大境洞窟住居跡（国指定史跡）

この遺跡が発見された当時、縄文式文化と弥生式文化との関係がはっきりわかっていない時であったので、その意義はきわめて大きいものとされています。

洞窟は、海蝕隆起洞で標高四㍍汀線から洞口まで五〇㍍、洞窟の深さは約四〇㍍で、その奥には清水が湧出しています。

発見された遺物層の表土層は現代近世、第二層は須恵器と金属器第三層は須恵器と土師器、第四層からは遺物として獣魚骨・骨器・石器類とともに人骨を出土、最下部の第六層から縄文土器を出土しています。

★朝日貝塚（国指定史跡）

この貝塚からは、二つの炉跡が発見され、わが国の石器時代住居跡発見第一号の栄誉を担っています。国の指定は、炉を中心とした地域ですが、この北約七〇㍍のところにはシジミを主とする淡水産の貝塚があり、縄文式文化後期から晩期の土器を出土して、汀線の移動を暗示しているものとして注目されます。

★上日寺のイチョウ（国指定天然記念物）

白鳳十年の創建と伝えられる古刹上日寺本堂正面にあり、日本屈指の巨樹で、別名「乳銀杏」として親しまれてきました。樹高約三五㍍、周囲一二㍍あります。

★十二町潟鬼バス発生地（国指定天然記念物）

スイレン科オニバス属唯一の現存種で、成葉はすべて浮水、たて形で直径一㍍内外、時には二㍍半に達したこともあります。

花は普通一茎一葉であるが、葉の大きさに比し極めて小さな花で径五㍉㍍内外です。

★飯久保の瓢箪石（国指定天然記念物）

この産地の地質は、新第三紀鮮新世の氷見層群の薮田シルト層の上部を占める石灰砂岩、あるいは凝灰質砂岩の互層で、その結核が瓢箪形をなしたものです。

氷見のあちこち

★南国調の虻ケ島

夏・冬、富山湾に流れる海流の影響をうけ、南方系植物と北方系の植物が繁茂しています。

島の長径は約一八〇㍍、ほぼ瓢箪形で、二つの島からなっています。

被子植物南方系約十七種、北方系数種があり、海棲動物も浅汀岩礁の間に豊富にあり、生物の宝庫といわれています。

★光久寺茶庭

寺伝によれば、親鸞聖人北越流罪の途中、この寺に滞在したとありますが、江戸時代、加賀の庭師駒蔵によって造られた庭園が有名です。この自然風回遊式中庭は、行の山水形式に則っとり、泉水を囲んで守護石、礼拝石、正真木、景養木、流枝松など、その配置はすこぶる妙であります。

★大栄寺

興国三年、後醍醐天皇の皇子宗良親王が南朝の士を求めて越中に入り、石動山天平寺の連絡上、大栄寺によったと伝えられます。

その名も〝鬼バス〟（直径2メートルにもなる）

★阿尾城跡

標高三七㍍、低山性丘陵を利用した城です。北、東、西の大部分が絶壁で海に面し、北へ海岸伝いに七尾へ、西の荒山越で山尾へといわば交通の要地にあったが、このような海岸岸壁に突出した城郭は、きわめてめずらしいものです。

★十二町潟

十二町潟は、東西に細長い周囲約四㌔の湖水で、次第に埋立てられたが、かつては家持のよく船をうかべた〝布勢の湖〟の名残りです。

★都万麻（つまま）

つままの木は、現在では〝イヌグス〟（タモノ木）とされていますが、以前は万葉集によまれた都万麻は現在の何にあたるか、わからなかった。また、この地方ではタモノ木をつままと呼んだことはなかったが、家持の都万麻の歌意から①渋谷崎方面に今も繁茂している木②巌上など土壌の少ないところでも生ずるもの③かなりの大木で樹令も相当長いもの④根の張り方に長く延びる特徴があることなど、植物学的にいろいろと研究された結果、イヌグスが最も条件にかなっていると実証された万葉ゆかりの木であります。

★万葉の史跡

越中は、近畿地方について最も多く万葉集に登場しますが、ここ氷見の町はその集約地と言って過言ではありません。その往時をしのぶ史跡を列記します。

松田江の長浜（布勢円山）
阿尾の浦（白ノ峰）
田子の白藤（十二町潟）

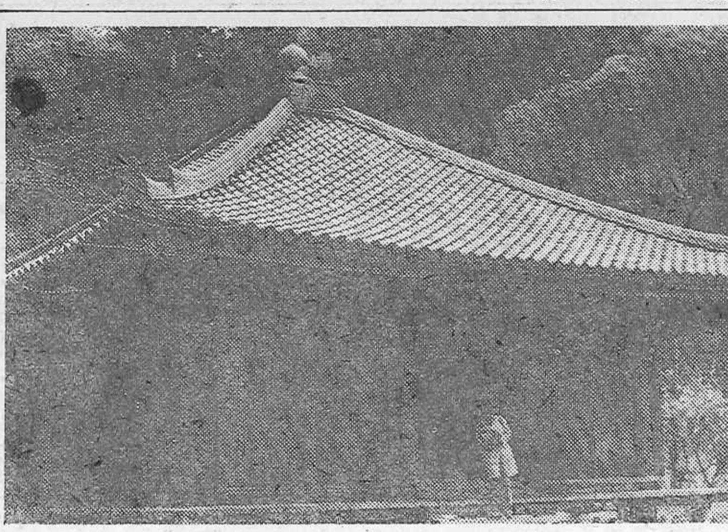
＝つづく＝（財団法人・富山県教職員厚生会業務係長）

あるくみるきく

ささやかな冊子の名前です。書店にも出さず、これといった広告もしてきませんでした。でも，熱心な読者に支えられて，もう10年も続いて発行しています。旅をする人、土地に住む人の目を通して、その土地のあるべき姿を正確にみつめていきたい――小さな冊子にそんな大きな夢を託しています。

- ●年間講読料1500円(〒共)近畿日本ツーリストの各営業所か、直接当研究所宛に現金または切手でお申込み下さい。
- ●見本をお送りします。

日本観光文化研究所
東京都台東区台東1－12－11
第2コモダビル
近畿日本ツーリスト株式会社内



豊後高田市・富貴寺の本堂で「蕗の大堂」ともよばれている。宝形造り、藤原時代の作である。九州では一番古い木造建築だという。（全修協広報部うつす）

日向・阿蘇と国東へ

東京私学の現地研修会

（財）全修協主催、東京私立中学高校協会・修学旅行研究調査会協賛、宮崎、熊本、大分各県の後援による第十二回・東京私学修学旅行現地研修会は「日向・阿蘇・国東の探究」としておこなわれることになった。

期日は八月七日から同十一日の四泊五日。会費五万三千五百円で定員八十名。

この研修会は神話と伝説の日向から、火の国の象徴阿蘇、さらに奈良・平安から鎌倉期の文化財が眠る国東半島へと多岐多彩な探究をする。日程は次の通り。

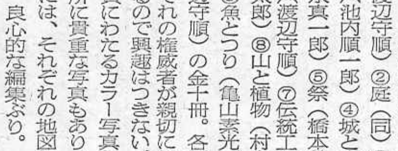
①川崎港（日本カーフェリー）②―日向港―延岡（城山公園）―高千穂町―岩戸神社―高千穂（岩戸神楽見学）③高千穂峡―国見岳―高千穂町―高森―立野―赤水―阿蘇山―阿蘇温泉④阿蘇神社―竹田（岡城跡）―大分（岩屋寺石仏・元町磨崖仏・府内城跡）―祚原八幡―別府⑤立石―真木大堂―元宮磨崖仏―富貴寺―豊後高田―宇佐八幡宮―中津（福沢 諭吉記念館）―行橋―小倉駅。

本

〃〃〃〃〃〃近江の顔シリーズ〃〃〃〃〃〃

滋賀県から発行

滋賀県では県内の歴史と文化などを中心とする解説書〝近江の顔シリーズ〟を編集発行した。①社寺（渡辺守順）②庭（同）③石造美術（池内順一郎）④城と古戦場（徳永真一郎）⑤祭（橋本鉄男）⑥道（渡辺守順）⑦伝統工芸（菅沼晃太郎）⑧山と植物（村上宣雄）⑨魚とつり（亀山素光）⑩味（渡辺守順）の全十冊。各編ともそれぞれの権威者が親切に鮮説しているので興趣はつきない。巻頭の四頁にわたるカラー写真もあり、た随所に貴重な写真もあり、また巻末には、それぞれの地図も挿入され、良心的な編集ぶり。



（各冊A5判四八頁、総アート、箱入りセット。二〇〇〇円。大津市京町滋賀県観光連盟発行）

関修委の会則

＜2＞

関東地区公立中学校修学旅行委員会の会則全文のつづきは次の通り。

第九条（監事）監事は二名とし委員会にはかって会長が指名する。監事は本会の会務及び経理の状況を監査する。

第十条（任期）本会の役員、監事の任期は一か年とし、再任を妨げない。但し補充により就任した場合は前任者の残り期間とする。

第四章　顧問・参与・専門委員

第十一条（委嘱）本会に顧問・参与・専門委員を置くことができる。

一、顧問・参与は会長が委員会の承認を得て委嘱する。顧問・参与は本会の重要事項について会長の諮問に応じ、会議に出席して意見を述べることができる。

二、専門委員は県修学旅行委員会および全修協から推せんし、会長が委嘱する。専門委員は本会の事業遂行について、専門的立場から協力する。

第五章　会議

第十二条（委員会）会長は年度始めに委員会を招集し、会の重要事項について審議決定する。必要あるときは臨時に委員会を開始することができる。

第十三条（運営委）会長は本会の運営を円滑ならしめるため運営委員会を設けて会務の進行をはかる。

二、会長は必要に応じて運営委員会を招集する。

三、運営委員会は役員及び各県中学校修学旅行委員会、全修協から推せんの委員をもって構成する。

四、運営委員会は運営委員の互選により運営委員長一名、副委員長若干名、事務主幹一名を選出し会長の承認を得る。委員長は運営委員会の運営にあたり、副委員長は委員長事故あるときはその職務を代行する。事務主幹は運営委員会の事務をつかさどる。

第六章　会計

第十四条（収入）本会の経費は次の収入をもってこれにあてる。

一、分担金　二、寄付金　三、その他の収入。

第十五条（会計年度）本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

第七章　会則の改正

第十六条（改正）この会則は委員の議決によって改正することができる。

第八章　補則

第十七条（細則）本会に必要な細則は会長が委員会の承認を得て定める。

第十八条（施行）この会則は昭和五十年四月一日から実施する。

チロル風のホテルは仲良し8人が一緒です。

集団生活の安全管理と宿泊の生徒さんの自主管理の両面から入念に設計された《スズカビレッジ》
●全館冷暖房完備
●防火優秀ホテルとして昭47.7消防庁長官賞受賞

2人で1台実物のエンジンを分解・組立てる
250名収容のテクニカルホールの生きた科学教育。
空へ、水へ、緑の中へ…自分でハンドルを握る〝ゆうえんち〟。
国際レーシングコースを走るレーサー気分も…………
そして陽の落ちた広場でファイアーストームを囲んで
校歌を歌うひとときーーー
チロル風ビレッジの一夜、翌朝伊勢湾から昇る朝日も
忘れがたいもの、どれを取っても
学生生活を刻んだキラリと光るひとコマです。

昨年一年間で11万人もの学生さんが
この思い出深い修学旅行を体験しています
「人と科学と自然の接点」
今年の修学旅行こそスズカを加えた
《新近畿ルート》をご検討ください。
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離
未来と過去を結ぶ理想の修学旅行コースです。

鈴鹿国定公園｜国鉄周遊指定地
スズカランド
鈴鹿サーキット
三重県鈴鹿市稲生町
電話＝0593(78)1111

株式会社ホンダランド
本社：
東京都中央区八重洲5-5 ☎03(274)5821
大阪営業所：
大阪市北区南扇町15 ☎06(313)0841